



# ぴっぴだより

No12. 2026. 2. 27

「はじまりは愛着から～人を信じ、自分を信じる子どもに～」  
「子どもの世界をどうみるか」  
「抱きしめてあげて～育てなおしの子育て～」  
「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」  
「意味が躍動する生とは何か～遊ぶ子どもの人間学～」  
「保育から世界が変わる」  
「教えから学びへ～教育にとって一番大切なこと～」

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、これらは本の題名です。  
スタッフミーティングで読んだもの、題名だけ知ってなんだか読んだような気になっているもの、読み途中のもの…どれをとっても幼児期の大切さが感じられる題名です。

ぴっぴで出会うどんぐりからおおくりのみんな。どんぐりの可愛さ、まつぼっくりの可愛さ、くりの可愛さ、おおくりの可愛さ、学年で括ってしまったけど、括りきれないひとりひとりそれぞれの可愛さ、素敵さ。たいへんなことも困ったこともあるかもしれないけど、大きく変化する大変さだったり、成長する木のような存在を自分の都合や意識だけで囲おうとするからの困ることもあるのかも…

わが家の上の子（うた・高3）がぴっぴのくりかおおくりの時、わたしの余裕のなさは自分でなんとかしてくれ、と気付かされたことがありました。子どもも自分を生きている、頭ではわかっていると思っていることなのに、自分に付属する人のように思っていたかもと、強烈に腹落ちさせられた感覚が忘れられません。何を言われたとかは覚えてないけれど、余裕のなさを押し付けていた、余裕がなくてもこれくらい（わたしの中の余裕のイメージ）は、つくらないと！と。

わが家の下の子（さく・高1）が小学生のとき、怖いと思う先生がいて、ある日、どうして怖いかわかった、とおしえてくれました。怒る時に、物を落としたり、大きな音を出しながら怒ると言うのです。それは怖い！それから数ヶ月か一年くらい後、今度は、その先生が怒るのもわかる気がする、とおしえてくれました。毎日毎日同じことを注意されているクラスの友だちがいて、怒りたくなる気持ちにもなるかも、でもその怒り方はやだけどね！と。その後、先生のことを少し理解できるようになった子どもたちによってかはわかりませんが、クラスみんな先生と仲良くなって、その変化は嬉しいものでした。

さくが中2くらいのある日に出た一言は「(先生が) 怒っちゃうんだよなあ…」でした。怒ると感情が湧くこともわかりながら、でも怒っても大事なことは伝わらないというか、怒っていることは伝わるけど、そこではないんだよなあ、のような。。(感情的な怒る、ではな

い伝え方や、本当に誰かを想う叱る、ができたらなあとむずかしさも感じながら。怒ることが単によくはないということではなくて…)

子どもって、すごくよくみてる。感じてる。大人が子どもをどう捉えているか、どこまで子どもだと思って子どもだということに甘えているか（もはや子どもとか大人ではなく、人間同士）…そうじゃない大人もたくさんいると思いますが、自分自身、可愛い可愛いと思う視点の先に、その奥底を感じたい、見つめる自分でいたいと願います。

振り返ったらあっという間の幼児期、本を読んでどんなにあの頃のわが子たちを想っても、もう彼らは高校生。それでもまだまだやわらかい部分はたくさんなので、気づいたことはできるはず！気づいたときが吉日！そしてなんととっても、今まさに幼児期のぴっぴのみんなが目の前に！ふにゃふにゃのやわらかい、どんな形も作ることのできる流したてのセメントのような心の土台が、固まってしまうときが来ることを、やわらかい時期がいつまで続くかはわからないと大切にしたい。日々の変化をおもしろがって、自分ひとりじゃなく、そこにいる人たちとみんなで感じ、考えながら、今を生きたいです。

：はるこ

# 庭の恵みを食べよう遊ぼう楽しもう 3月

『弥生』3月 春生れれのせい、その言葉を聞くだけでワクワク、うずうずしてしまう私ですが、2月中頃から日の光が強くなり、日照時間も長くなり、色々なところで春の兆しがみられるようになってきました。

今月はここ最近 私が庭でみつけた **小さな春をみなさんにもご紹介**します。鳥たちも、植物たちも春を待ちわびるその姿にきくと元気をもらえるはず!

ぜひみなさんも小さな春探し、楽しんでみて下さいね!

菜々恵

## ダシコウバイ

日の光と浴びて茶色の芽鱗がとれホフホフとふくらんできまけ。



黄緑色のつぼみが顔をのぞかせます。

## アブラチャン

どちらも黒文字などの仲間でお茶にすると美味♪ 伊豆あたりに多くみえます。

光にあると銀色に輝く芽鱗



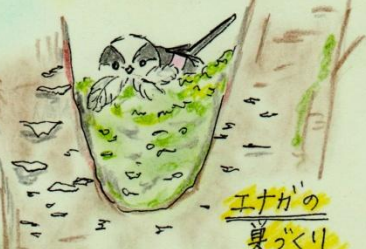
## ツツピー



ヤガで、このフワフワの部分がめくれて木の下に落ちて、つぼみが開いていきます。春先の花粉症、鼻炎などに効く漢方薬があります。

## シジュウカラのさえずり

冬の間はジフジフジフ... といった地味な鳴き方が光が強くなる2月頃から「ツツピー、ツツピー」と高く通る声でさえずり、春の訪れを感じさせます。これは主にオスの縄張り宣言やプロポーズの意味があります。



## エナガの巣づくり

2月末から3月頃にエナガはこよにわたる木の隙間などにコケやクモの糸、羽毛などを使って球状の巣をつくります。



## キツツキの春の音♪

ドラミング♪といって1秒間に20回という速さで木をつつきます。その音は、はるか遠くまで届き、オスがメスに届けるプロポーズの音です。春浅い2月半ばから4月頃によく聞かれ、春を感じる音です。

## 「天道虫」も里かきたす♪

上に向かって飛びつ習性から天道様に似て飛ぶようにみえたところからついた名前。成虫で越冬するので、あたたかい日に

豊かく姿がみられる世界中で、幸運のシンボルとされています。



## ホトケノザ



## オオイヌノフグリ



## ハコバ

消炎 金風通作用 カルシウム、鉄分豊富、生薬にも。



## カラスノエンドウ

ミネラルたっぷり♪ 加熱して食べる。てんぷらなどがオスオス♪

お陽様がよくあたる花だんの隅や植木鉢の横などあたたかい場所には春の野草たちがもう小さな花を咲かせ虫たちの豊かく姿もみられます。

春の七草でもあるハコバ、豆科のカラスノエンドウは冬の間も落ち葉の下でしっかりと生きついています。その生命力を食卓にも♪ どちらもアセがよく、ハコバは生でサラダに青じらしたり、カラスノエンドウはパスタやオムレツなどにも合います。カイワレダイコン、豆苗のように使ってみて下さい。

本当の春はまだ少し先ですが、小さな春の喜びを探しながら日々を過ごすのはとても楽しいですよ♪